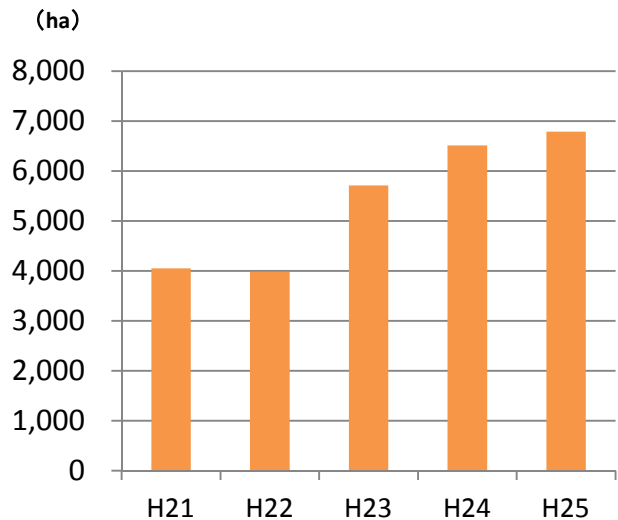
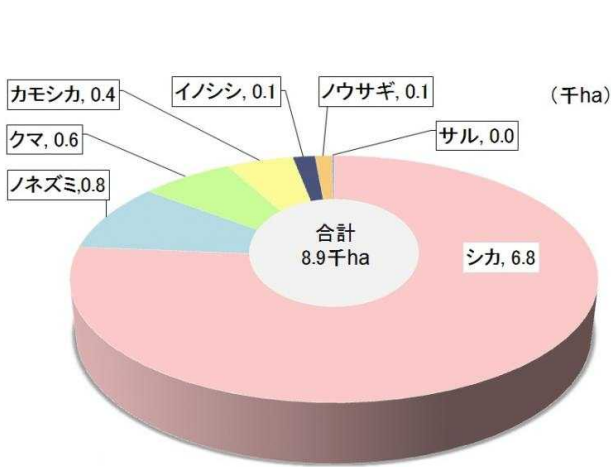


～ニホンジカによる森林被害について～

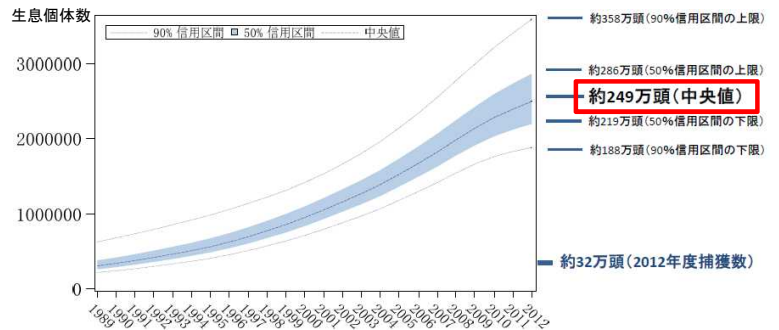
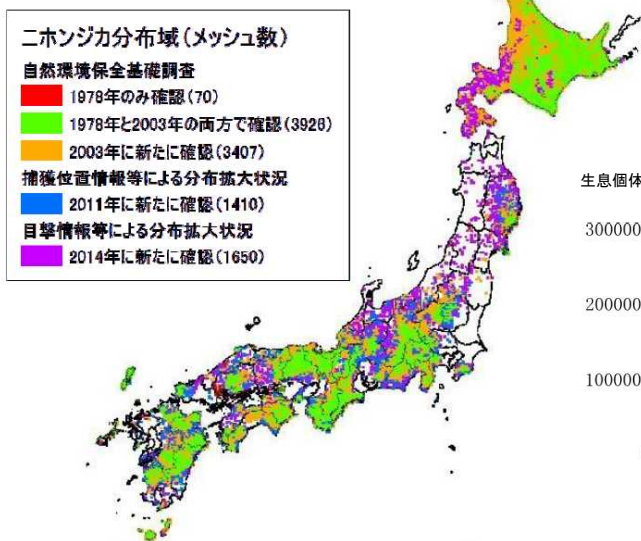
◇全国被害の現状

- 平成25年度の野生鳥獣による森林被害面積のうちシカによる被害は約4分の3を占める。
- 同年度のシカによる森林被害面積は約6.8千haであり、4年前と比較して約1.7倍の増加。
- シカの生息分布は1978年以降大きく拡大しており、この36年間で分布域を約2.5倍に拡大。
- 全国の総メッシュ数に占めるニホンジカの分布割合は約6割。
- 環境省の推計では、北海道を除く本州以南には平成24年度末で約249万頭のシカが生息（北海道は約59万頭）



■ 主要な野生鳥獣による森林被害面積 (平成25年度)
※都道府県等からの報告による、民有林及び国有林の被害面積の合計

■ ニホンジカによる森林被害面積の推移 (林野庁)



■ ニホンジカ 全国生息分布メッシュ比較図
※環境省資料(平成27年4月)

■ 統計処理による個体数推定(ニホンジカ(北海道を除く))
※環境省資料(平成27年4月)

◇全国各地の被害事例

北海道から九州まで、全国各地でシカによる造林地や自然植生被害が発生しています。

◆樹木の摂食被害



北海道知床 エゾシカによる広葉樹の樹皮食害



静岡県富士山周辺
シカの食害を受け成林が見込めなくなったヒノキ新植地

◆下層植生の衰退



神奈川県丹沢地域
ヒノキ人工林のシカの食害による下層植生の消失



和歌山県護国寺山周辺
シカの食害により下層植生がアゼビに単一化

◆食害による裸地化



福井県嶺南地域
風衝地(以前はチシマザサ等が繁茂)におけるシカの食害による裸地化



長崎県対馬
シカ食害による地表流出により斜面崩壊の恐れ

◇シカ被害深刻化の過程(高知県香美市さおりが原周辺)

シカによる食害を受けたまま対策を行わないと、短期間のうちに下層植生が衰退し、ついには土砂崩壊まで発生する恐れがあります。

2003.8.10撮影



かつては緑豊かな下層食生が……

2008.5.24撮影(約5年後)



シカの食害により忌避植物(嫌いな植物)のみとなり下層植生の単純化が進む

2009.5.31撮影(さらに1年後)



さらに食害が進み下層植生は消失、立木の立ち枯れが顕著になる

2009.7.24撮影

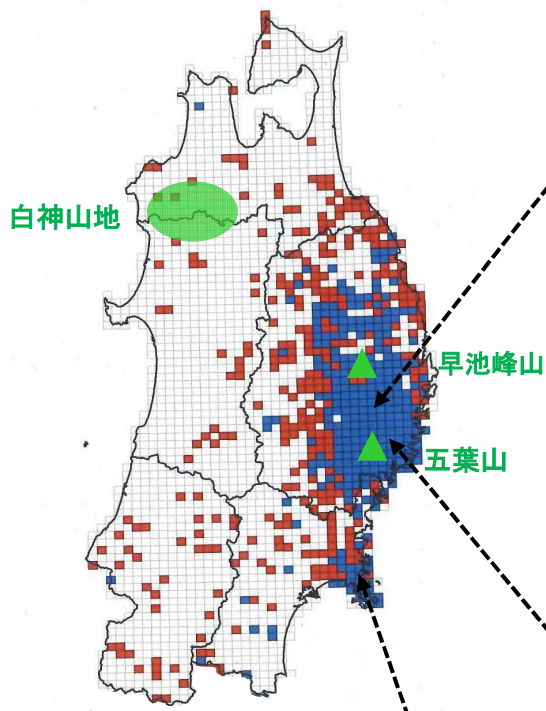


ついに土砂崩壊が発生……

**森林の持つ
国土保全機能の低下**

◇東北局管内国有林の被害状況

岩手県及び宮城県の一部で被害が発生しています。造林地では摂食被害が発生し、貴重な自然植生への影響も懸念されます。



■ 東北地方におけるニホンジカ分布図(平成27年環境省)
※青色・赤色メッシュともに生息分布を示す。

◆岩手県遠野市



幼齢造林木の摂食被害



樹皮剥ぎ被害

◆岩手県住田町五葉山周辺



シカの食害により衰退したササ

◆宮城県牡鹿半島



アワブキの剥皮被害



ディアライン(下層植生や枝葉がシカの届く高さまで食べられた採食ライン)が形成されている。

(支)署名	H24	H25
遠野	0	4.72
三陸中部	0	7.16
宮城北部	2.09	1.30
計	2.09	13.18

表:管内の造林地被害面積(ha)
(枯死・要改植)